

氏名 森 由 弘

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2389 号

学位授与の日付 平成 4 年 3 月 28 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目 サルコイドーシスの肺肉芽腫形成に対するPropionibacterium acnesの関与に関する研究

第1編 サルコイドーシス肺胞リンパ球のPropionibacterium acnesに対するInterleukin-2産生及びInterleukin-2受容体発現について

第2編 Propionibacterium acnesによる実験的肺肉芽腫症における肺胞リンパ球のInterleukin-2産生およびInterleukin-2受容体発現について

論文審査委員 教授 赤木 忠厚 教授 金政 泰弘 教授 太田 善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

サルコイドーシス(サ症)の病巣よりPropionibacterium acnes (P.acnes)が高頻度に分離培養され、サ症肺胞リンパ球がP.acnes刺激により幼若化の亢進を起こすことが報告されている。この幼若化に至る過程を解明する目的で、Interleukin-2 (IL-2)産生及びIL-2受容体発現について検討した。第1編では、サ症患者の気管支肺胞洗浄液中及び末梢血リンパ球のP.acnes刺激によるIL-2産生とIL-2反応能を測定し、サ症の臨床像及び幼若化率との関連について検討した。サ症肺胞リンパ球のIL-2産生能は、対照例に比して有意の高値を示した。また、サ症肺胞リンパ球のIL-2産生と幼若化率は相関係数0.478と有意な正の相関が認められた。一方、サ症肺胞リンパ球は、P.acnes刺激にて対照例に比し、有意にIL-2反応能が亢進しIL-2の機能的受容体発現が起こることが示された。しかし、サ症末梢血リンパ球のIL-2産生の亢進はみられなかった。以上よりサ症肺胞リンパ球はP.acnes刺激にてIL-2産生及びIL-2受容体発現の亢進を介して肺局所で増殖しており、P.acnesの関与が示唆された。第2編ではP.acnesの前感作及び気管内感作により実験的肺肉芽腫を作製した。その肺胞リンパ球は、対照群に比して有核細胞数が増加し、P.acnes刺激によりIL-2産生とIL-2反応能の亢進が認められた。これらの結果

は、サ症における肺胞リンパ球の異常と一致するものであり、サ症の病因としてP.acnesの関与が示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究はサルコイドーシスの肺肉芽腫形成に対するPropionibacterium acnes (P.acnes)の関与について、サルコイド症患者およびP.acnesによる実験的サルコイド症の肺胞リンパ球の、Interleukin-2 (IL-2) 産生およびIL-2受容体発現の面から研究したものであるが、サルコイド症の病因としてのP.acnesの関与について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。